



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2019年 9月 4日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	義村 弘仁

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
吉野、奈良県	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
環境省インターンシップ	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
2019年 8月 21日 ~ 2019年 9月 3日 (14日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
環境省吉野管理官事務所	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
環境省吉野管理官事務所において2週間のインターンシップを行なった。自然保護官の業務だけでなく、アクティブレングジャーの業務についても多く学ぶことができた。管理する側の視点から国立公園を見る経験は新鮮なものだった。吉野管理官事務所の主な所管地の一つである大台ヶ原では、氷河時代から残る貴重なトウヒ林が衰退しつつあり、長年自然再生の取り組みが行われている。現在の大きな要因としてはシカとササが考えられており、防鹿柵や個体数管理・坪刈りといった対策がなされている。しかし、国立公園は利用を前提としている以上、安全や利用者の心情への配慮と効果的なシカの捕獲とのバランスを取るの非常に難しいことも課題となっている。また、ツキノワグマの出没も作業に制限をかける一因となっている。期間の中で生態学会主催のシンポジウムが行われ、長年大台ヶ原で研究を行なっている研究者の話や最新の研究成果を伺うことができた。シカによる樹皮剥ぎの話などは自身の研究の視点からも非常に興味深かった。今回のインターンシップを通じて、自然保護官の業務について具体的なイメージを描けるようになった。また、今後日本の国立公園で調査をする機会があることも考えられるため、この経験は生きるはずである。	
	
図1：大台ヶ原から望む大峰山系と雲海	図2：トウヒ林の衰退が進む正木峠
6. その他 (特記事項など)	